



## 無事に込められた意味

### なし得る限りの努力を積み重ねて

ある書物の中で「無事」についての話が載っていました。学校の教育活動にも通じているところがあり、紹介します。

東京駅の駅長室に1枚の文字額が飾ってあり、駅長である梅原康義さんが先輩から何て書いてあるかを質問され、「無事」と文字を読むと、その意味を問われ、戸惑う梅原さんにその先輩はこう告げたのだという。「“無事”というのは、大過なくすぎることではない。自分たちにとってそれは最大の目標だ。“事が無い”のではなく、なし得る努力のすべてが“有る”状態で初めて“無事”となる」と。

(大人の休日倶楽部10月号東京駅より)



2学期の授業日数は79日、1学期から合わせると154日です。24日で終業式を無事迎えることができました。子どもたちは、様々な教育活動を通して、人・もの・地域とのふれ合いができ、「かわり合い、学ぶことの大切さ」を習得しました。生活科や総合的な学習、全校なかよし遠足・学習発表会・校内持久走大会等で、子どもたち一人ひとりが努力を重ね、充実感や達成感あふれた“有る姿”が随所に見られました。各学年で各種大会・コンクールに参加することも大変多く、称賛や賞を受けた子どもたちは、枚挙にいとまがありません。子どもたちは、なし得る限り



自分の力を発揮しようと努力を積み重ねてきました。また、この頑張りの根底となるPTA・地域の応援を肌で感じさせていただきました。子どもたちが健康で安全で充実した学校生活を送るために、地域・保護者の皆さんが学校と力を合わせ、連携し合い、教育活動を支えてきていただいたおかげです。これまでのご支援・ご協力に感謝申し上げます。今後も、子どもたちを“有る”状態として成長させるべく、なし得る限りの努力を積み重ね、全職員で取り組んでいく所存です。来年も引き続き、ご理解とご支援をよろしく申し上げます。

(校長 小野 雅子)

